

委員会会議録

(社)滋賀県トラック協会

会議名	「トラックの日」の事業実行委員会
開催日時	平成22年3月8日(月) 14:30~16:50
開催場所	滋賀県トラック総合会館 3F「研修室1」
出席者	委員13名、事務局5名

協議内容

開会にあたり竹備会長からあいさつがあった後、岡田実行委員長の議事進行により協議に入った。

(1) 平成22年度事業計画(案)策定について

事務局より資料に基づき「平成22年度事業計画及び予算(検討案)」について説明を行った。「トラックの日」啓発の広報費用については企業振興委員会で予算化。

続いて、岡田実行委員長より出席委員に対し、意見を求めたところ次の発言があった。

- ・ 本日は現メンバーが招集され、代理として次期実行委員会のメンバーとなる新支部長予定者や青年協議会新会長予定者が出席しているが、今回が初めて平成22年度事業計画(案)について検討される実行委員会として開催されている。各支部では次年度新支部長予定者も決定されているので、次期実行委員会のメンバーで事業内容を検討してはどうか。
 - ・・・岡田実行委員長から、出来れば次回から次期委員予定者をメンバーに実行委員会を開催したいが、後ほど皆さんにご検討頂きたい、と述べられた。
- ・ 「ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ」は一般会計から食料費120万円(1,000円/1名)が予算化され、又、支部からも1,000円/1名が出されている。協会の大きな事業である交通事故防止総決起大会でも食料費は出ていないが、これについてお聞きしたい。
 - ・・・竹備会長から、当初立ち上げた実行委員会で第一回目の「ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ」を行う際、1,000人を集めるための投資として協会一般会計から1,000円を予算化したことの経緯を説明された。

・・・続いて岡田実行委員長より、交通事故防止総決起大会にも参加記念品という形で参加費は出ている。又参考ではあるが、物流セミナーには荷主だけに記念品を渡している。「ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ」は本来、ボランティア（無償）で行うのが良いと思う。

・・・竹備会長から支部によっては交通事故防止総決起大会に参加費が出ているところもある、と報告。

・・・交通事故防止総決起大会で参加費を出している支部（支部長）から、休みの日に協会の事業にわざわざ遠いところから参加してもらっているお礼として些少ではあるが参加費を支払っているのが現状である、と説明。

- ・ もし協会から食料費が出なくてもその分を支部で補填し、支部分と併せて出しても良い。
- ・ 過去2回、食料費を出して協会会員や従業員とその家族の参加によりこの「ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ」を実施してきたが、これからは食料費を出さないで（無償で）参加してもらい、その他県内のボランティア団体に呼びかけてこの活動を実施出来ないか。
- ・ 当初から「ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ」は3年～5年は続けるということではじめたのだから是非最低3年は続けて欲しい。
- ・ まずは「ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ」を今年も行うかどうか、又協会執行部でも3年～5年は行うなら行うで意思統一も必要であるし、この実行委員会でも確認する必要がある。
- ・ 食料費の問題については、当初目指しているところに舵を修正して本当の意味でのボランティア（無償による社会貢献活動）で行うということを検討していくべきである。
- ・ 本来の「トラックの日」の事業の意味を考えるべきである。安全対策や環境対策、ドライバーのマナーアップを基に我々の業界をアピールするものであると思う。
- ・ 地域のボランティアや一般の高校生などにも「ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ」に参加してもらえればトラック業界の理解を得られるのではないか。
- ・ 同じお金を使うなら食料費の120万円をおりづる会に寄付するなど、お金の使い方考えるべきである。
- ・ 食料費120万円については今後、継続して検討する必要がある。

- ・ 一つ問題定義をすると、「ボランティア」の言葉に惑わされていないか？「ボランティア」とは自ら進んで社会貢献活動をする人のことを言い、「無償」とは書いていない。協会の事業として「トラックの日」の事業（「ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ」）を行うのなら食料費を出してもおかしくはない。それに食料費以外にもこの事業に係る経費も予算立てて使っているのではないか。そういう意味からしても食料費の問題はもう一步踏み込んで検討した方が良い。
- ・ 新聞やテレビを見て思ったのだが、琵琶湖を一周してゴミ拾いをするというインパクトのある「トラックの日」の事業を行っているトラック協会は全国にはない。この業界をPRする手段として琵琶湖一周のゴミ拾いを行っているのではないか。
- ・ この「トラックの日」の事業実行委員会は専門委員会とは違い、会長直属の委員会である。
- ・ 以前は青少年の育成を目的に「少年野球教室」を行ったが、これは我々が行うべきことなのか。「トラックの日」の事業とは趣旨が違うのではないか。過去2年、「ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ」という我々の業界をPRする事業を行ってきた。
- ・ 事業として見るならば食料費が出るのは構わないと思う。
- ・ もう少しアピールすることを考えるべきである。どれだけの人が我々のゴミを拾っている姿を見ているか？どれだけの人が評価しているかを考え事業を行うべきである。
- ・ ドライバーや社長、管理者がゴミ拾いをしてゴミを捨ててはいけなく感じる。ある意味、内向きの事業であるのかも知れない。この2年間、地道に会員だけで「ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ」を行ってきた。3年目は改善して行っていくべきである。
- ・ 社会貢献活動を2年間行い、業界をPRしてきた。継続は力なり、と言われるようにやり方は変えても続けていくべきである。
- ・ どんなに良いことをしても誹謗中傷する人はいる。滋賀県しか琵琶湖一周のゴミ拾いは出来ない。今年も1,000人で琵琶湖一周するべきである。
- ・ 社会貢献したことにより1,000円出す、ということで良いのではないか。
- ・ 今年度は参加者の1/4が子供であった。子供達を見ているとお金がもらえるから参加したというふうには思えない。子供には食料費は半額で良い。もしくはQOカードなど現金に代わるものが良いのではないか。
- ・ スピリッツの原点は、家族と一緒に琵琶湖一周のゴミ拾いを行うことである。

- ・ ゴミを捨ててはいけないという、教育も含めて「ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ」を行い、PRをうまく行いたい。
- ・ 最低でも3年間行いたいという竹備会長の思いもある。
- ・ 食料費の問題もあるが、「ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ」は続けるべきである。

続いて、岡田実行委員長から、平成4年に「トラックの日」が出来た経緯について説明され、それ以来、「トラックの日」の事業については現在も全ト協の指導は特になく全国バラバラな内容で事業を行ってきている。現在、近畿だけでも統一しようとしているがなかなか話が進まないのが現状であるが、当県は竹備会長指導の基「トラックの日」の事業を行ってきている。それを含んで今後も協力をお願いしたい、と述べられた。

続いて、次の意見があった。

- ・ 「ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ」は家族も巻き込んで実施しているのでアピール出来ていると思う。やはり3年～5年は続けて欲しい。
- ・ 京都新聞・中日新聞は滋賀版に力を入れている。例えば、そこを活用し年間通じてPRすることも検討してはどうか。

これに対して、岡田実行委員長から、広報活動については企業振興委員会で検討しているが、ドライバーはあまりラジオを聞いていないようなのでラジオ広報は減らし、次年度は新聞広報に重点をおくことで進めている。「トラックの日」の趣旨説明や対談方式により新聞広報を行っても良いと考えている、と述べられた。

続いて、次の意見があった。

- ・ 「ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ」について何度も意見は出ているが、食料費の問題はあるが最低3年は続けていくべきである。
- ・ 誹謗中傷の意見もあるようだが、3年～5年は行うと一旦決まっているのだから全力を挙げて行うべきである。また、以前「トラックの日」の事業として行った「少年野球教室」のように子供達からの要望もあったにもかかわらず次年度は行わなかった経緯もあり、一旦事業として行うならば最低でも3年は実施しないと意味がない。

また、岡田実行委員長は事務局にも意見を求められたところ次の発言があった。

- ・トラック業界のPRを「トラックの日」の事業として行っている。事業として行っているので食料費を支払っても良いのではないか。無償という意見もあるが区分けして考えれば良い。
- ・参考資料「滋賀+1」に、嘉田知事と子供達との座談会で「もしあなたが知事だったら、滋賀県のために何をしたい？」という記事が記載しており、「琵琶湖を綺麗にする」という意見も多かったことを参考として報告した。

最後に、岡田実行委員長から、3月26日の理事会には食料費120万円について一般会計で予算化し提案したいので了承を得たいと述べられ、異議なく承諾された。続いて次の意向を述べられた。

- ・以前意見があったが、甲賀支部だけか琵琶湖に面していないが、活動エリアをどうするのか、次回実行委員会で検討したい。
- ・次回実行委員会で食料費の問題と他のボランティア団体の参加については引き続き検討していきたい。
- ・「エコ・セーフティドライブコンテスト」の検討を次回実行委員会で行いたい。
- ・もし理事会等でも「トラックの日」の事業で「ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ」より素晴らしい意見が出た場合は、平成23年度以降の検討事項として今後の実行委員会で検討していきたい。
- ・実行委員長は次回実行委員会で私（次期会長予定者）が指名したい。

また、竹備会長及び岡田実行委員長より次回以降の実行委員会の出席者については、次期正副会長予定者及び次期常任参与予定者、次期支部長予定者、次期理事予定者2名（現在のメンバーである坂口・外村両理事）、青年協議会から次期会長予定者及び次期直前会長予定者としたいと述べられ、検討されたところ今までご尽力を頂いた下司支部長に理事枠のメンバーとして入ってもらい理事3名とし、実行委員会の組織とすることが承認された。

次回実行委員会

日 時 平成22年4月8日（木）13時30分～
場 所 滋賀県トラック総合会館